平成 23 年（2011）年 12 月 3 日　富山市教育委員会　埋蔵文化財センター

二本榎遺跡確認調査現地説明会資料

1　調査原因　主要地方道小杉婦中線道路改良事業に先立つ確認調査
2　調査面積　７１５㎡
3　調査地　富山市婦中町小長沢地内
4　調査期間　平成 23 年 10 月 17 日～12 月中旬（予定）
5　事業主体　富山県（富山土木センター）
6　調査主体　富山市教育委員会 埋蔵文化財センター
7　調査機関　株式会社　上智

8　二本榎遺跡の立地

遺跡は呉羽丘陵の南西側、平野部から一段高くなる下位段丘上(標高 59～61m)に立地しています。周辺には旧石器~近世までの遺跡が確認され、県内でも遺跡が密集する地域です。

遺跡の北東 300m には小長沢古墳群があり、現存するのは 3 号墳のみです。3 号墳では須恵器が表採されています。

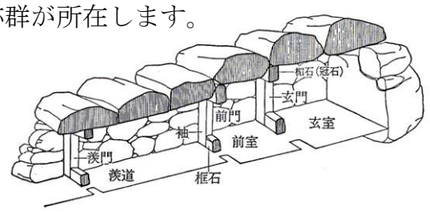
遺跡の西には、平岡窯・二本榎Ⅲ遺跡があり、7 世紀末の須恵器坏蓋が採集されています。

遺跡の南西丘陵上には弥生時代終末期の集落や四隅突出型墳丘墓、県内有数の規模の前方後方墳など 7 遺跡で構成された国史跡王塚・千坊山遺跡群が所在します。

遺跡分布図

9　調査の成果

今回の調査は、遺跡の性格を見極めるのに詳細なデータを取るための確認調査です。その結果、富山県内で類例の少ない古墳時代後期の横穴式石室をもつ古墳１基、溝、土坑などが見つかりました。



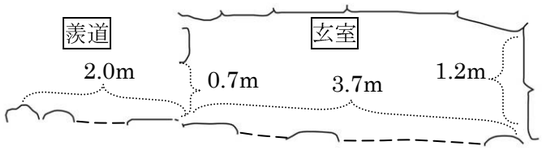
横穴式石室の模式図
『古墳辞典』（東京堂出版　1982 年）より

(1) 古墳

調査区の中央部西寄りで確認されました。
直径 14m の円墳で、墳丘は後世の開墾等で失われていましたが、横穴式石室や周溝が確認されました。

①横穴式石室（右模式図参照）

古墳の中央部から南側の周溝に向けて竪穴が掘られ、その後石を積み上げて石室をつくっています。石室の規模は玄室（死者の棺を安置する墓室）部分で長さ 3.7m、幅 1.2m、羨道（外と墓室との通路）部分で残存する長さ 2.0m、幅 0.7m です。床面は粘土をたたきしめた貼床になっています。天井石は失われており、石室の一部は壊されています。平面形状は、無袖式、左片袖式、とっくり型の可能性があります。



二本榎遺跡　横穴式石室平面概略図

②周溝

古墳の墳丘部分の周囲には溝が巡らされています。幅 1.5～2.0m、深さ 0.2～0.4m です。
周溝の南半分から遺物が多く出土しました。

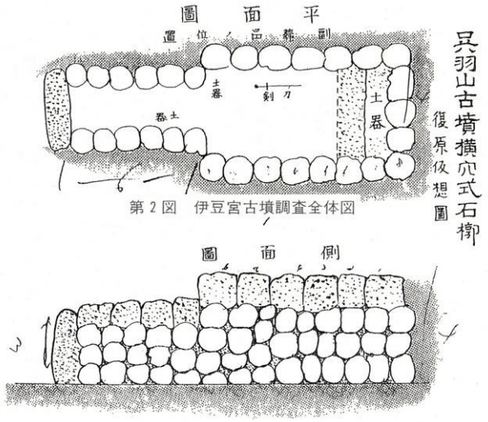
出土した遺物は須恵器甕・高坏・坏・蓋があり、石室に遺体を納め、溝のまわりで死者を弔う祭祀をした後、溝に廃棄されたと考えられます。須恵器の年代は 7 世紀初頭で、県内で焼かれたと推定されます。

(2) 溝

幅 0.6～0.7m、深さ 0.4m で、東西方向に伸びます。古墳周溝より後に掘られています。古墳周溝と交わる部分で須恵器の壺が出土しています。年代は 7 世紀初頭で古墳周溝から出土した須恵器とほぼ同じ時期です。

(3) その他の遺構や遺物

土坑や穴が見つかっていますが、遺物は出土しておらず詳細は不明です。遺物は須恵器以外に縄文土器や縄文時代の石鏃が出土しています。



第 2 図　伊豆宮古墳調査全体図

呉羽山古墳横穴式石室復原仮想図
大村正之 1931『富山懸史蹟名勝天然記念物調査會報告』第 2 巻　第 11 号を一部改変

10　まとめ

今回の確認調査では、古墳時代後期の横穴式石室をもつ古墳が 1 基見つかりました。横穴式石室をもつ古墳は、富山県内では現在までに 6 基確認されています。今回の調査で見つかった古墳は県内で 7 基目となります。

また、古墳の規模や形態、横穴式石室の構造や規模、土器の年代や供献された状況など、この時期の古墳の全貌が確認されたのは県内では初めてです。この時期の古墳を研究する上で、大変貴重な調査成果です。

この時期は複数の古墳が集まる群集墳が多く、それらは、有力な家族の家長が葬られた世帯墓です。やや離れた北東 300m にある小長沢古墳群 3 号墳などとの関係も、今後調査・研究を進める必要があります。

遺跡周辺は、弥生時代終末期～古墳時代前期にかけて、国史跡王塚・千坊山遺跡群など富山県内でも有数の首長墓が築かれました。しかし、その後の様相は不明でした。

今回、この古墳が検出されたことにより、王塚・千坊山遺跡群が営まれた後の旧婦負郡の有力者の動向を解明する大きな手ががりになります。

二本榎遺跡の古墳は、現在見ることができる県内唯一の横穴式石室古墳であり、史跡王塚・千坊山遺跡群の前期古墳と合わせ後期古墳までを学習できる地域の宝といえます。

富山県内横穴式石室調査一覧表　1 尺＝30.3 ㎝

古墳名	時期	石室の規模・副葬品など
呉羽山古墳 （安養坊）	古墳時代後期	玄室長 9 尺×幅 4 尺×高さ 4 尺、羨道長 6 尺×幅 2.5 尺×高さ 3 尺、太田石の天井石、両袖式？、頭椎太刀・金環・銀環・曲玉・玻璃玉・須恵器
伊豆宮古墳 （栗山）	古墳時代終末期	方形墳（八角形墳？）長さ 5m×奥壁幅 1.4m 須恵器・鉄製品（馬具？）
生源寺新十三塚古墳 （射水市）	古墳時代後期	玄室長 7 尺×幅 5 尺、羨道長さ 8 尺×幅 4 尺、岩崎石 金環・銀環・曲玉・小玉・青丸玉・太刀・小刀・鍔破片・須恵器ほか
朝日長山古墳 （氷見市）	古墳時代後期	前方後円墳、石室内部長 5.8m×幅 0.9m 高さ 1.3～1.4m、岩崎石 直刀・刀子・短剣・鉾・鉄鏃・鉄環・杏葉・冠帽・胡籙金具・鞍・鋲・管玉・小玉・須恵器
桜谷 8 号墳 （高岡市）	古墳時代後期	長さ 22 尺×北幅 6.2 尺×南幅 5 尺×北高さ 4 尺×南高さ 3 尺 刀身・金環・須恵器など
斉ノ神新8 号墳 （上市町）	古墳時代 終末期	円墳、長さ 7m×幅 1.1m×高さ 1m 須恵器（奈良時代）